



たくましく現代に生きる子どもの育成

研究テーマ

社会に生きる個性の創造

【こんな子どもに】

「認め合い、やり抜く子ども」

- ・色々なことにチャレンジし、最後まであきらめずにやり抜く
- ・自ら課題をもち、解決しようとする
- ・自分の考えをしっかりと主張する、表現する
- ・一人一人が違うことを理解し、認め合う

【キーワード】

- 子ども主体:**子ども理解に立った、子ども主体の教育活動
- 個性の尊重:**子ども一人一人の良さを認め、さらに伸ばす
教員一人一人のやりたいことの実現と資質向上
- チームの力を最大化:**補い合い、支え合い、高め合い、協働

【こんな教師に】

「継承と変革をめざす教師」

- ・北条教育が大切にしてきたものを知る
- ・教育目標、研究テーマを自分なりに実践し、具現化する
- ・教師自身がやりたいことをもち、自分自身を高める
- ・仲間と補い合い、支え合い、チームで最大の力を発揮する
- ・「分担に耐え、分担を超える」

現代の捉え

2023.4.3

- ・多様性の尊重 ・少子高齢化の加速 ・生涯学習社会の実現
- ・IoT や AI 等による情報技術の進展と社会や生活の変化
- ・感染症や災害等のリスクへの対応 等

激しく変化する未来

<p>〈学習指導〉 ～やってみたい、話したがりを育てる～</p>	<p>〈生徒指導〉 ～子ども理解、生徒指導の質を1段階Up～</p>	<p>〈学校経営〉 ～伝統の継承と変革～</p>	<p>〈人材育成〉 ～自らを高め、魅力ある教師に～</p>	<p>〈働き方改革〉 ～ワークライフバランスのとれた教師～</p>
<p>0. 基本的事項の徹底 (1) 学習規律、学習習慣の確立 ・学習規律の何を、いつまで、どのように身につけるのか、各学年で明確にして取り組む ・授業の開始時間を守る (2) 基礎基本の徹底 ・学習問題とまとめの一致 ・評価時期を明確にし、対策を講ずる ・評価での説明責任を果たす ・デジタルドリルの効果的活用(紙との併用の仕方を学年に応じて工夫する) ・学習支援員、外部講師等の有効活用</p> <p>1. 「やってみたい」「できた」「わかった」を大切に授業の工夫 ・問題解決型の授業となるよう、学習過程を工夫する(自己決定、自己選択の場の確保) ・導入を工夫し、問題意識を高め、「やってみたい」気持ちを持たせる ・「できた」「わかった」を実現する手立ての工夫と継続的な働きかけを行う ・45分の中に思考場面を十分に確保する。 ・発達段階に応じ、体験活動、グループ活動等を積極的に導入する(学習形態の工夫)</p> <p>2. 表現する力の育成 ・話したい、伝えたい気持ちとなる授業の工夫 ・発表機会を確保し、学び合いを重視 ・個に応じた表現を認め、支援する ・聞き手を育てる</p> <p>3. ICT活用による主体的・対話的で深い学びの展開</p>	<p>0. 基本的事項の徹底 (1) 生活規律の徹底 ・「北条っ子の一日」を共通理解し、守れるようにする ・時間を守って行動させる。自分自身も守る (2) いじめ防止基本方針の理解 ・いじめ(につながる)言動をしっかりとらえ、見逃さない。(観察やアンケートの実施) ・早期対応、早期解決(子どもが納得できる解決) ・思いやりのある言葉を使えるようにする</p> <p>1. 子ども理解 ・発達段階における子ども理解を図り、学年に応じた話し方、活動の仕方を工夫する ・休み時間の子ども様子を把握する(友人関係や気持ち) ・子どもの話(言い分)を丁寧に聞く ・子どもが納得できる説明、指導を行う</p> <p>2. 認め合える集団の育成 ・教室に一人一人の居場所をつくる ・一人一人の良さががんばりを伝える工夫をする ・授業での認め合う場面を大切にする</p> <p>3. 自ら考え行動できる子どもを育てる ・課題を自ら解決する方法を考えさせる ・子どもの個性を認め、その子に応じた効果的な指導の在り方を考える ・十把一からげの指導、連帯責任、威圧的指導は教育効果が薄いことを理解する</p>	<p>1. 教育方針(教育理念)の共通理解と実践 ・学校経営ビジョンや研究テーマを理解 ・目指す子ども像の実現のため、教育課程、研究・指導方法、教育環境の一体化を図る ・カリキュラム管理室を中心とした、プラン実践検証サイクル(PDCA)の充実を図る。 ・子どもの主体的取組を推進する</p> <p>2. 子どもや保護者との信頼関係に基づく経営 ・教師から明るい挨拶をする ・教師の笑顔で子どもに安心感を与える ・迅速かつ丁寧に誠実な対応に努める ・学校の情報発信に努める(各便り、メール、ブログ目標200回更新)</p> <p>3. 安全・安心な学校 ・報連相の徹底 特に相談後の報告を大切にする ・校外における事故の要素を洗い出し、対応策を徹底する。 ・事故等の対応を全職員が的確に行えるようにする ・産業医の活用を推進する ・不祥事につながらないよう、小さな変化に目を配る</p> <p>4. 認め合い、高め合える教師集団の形成 ・合い言葉「分担に耐え、分担を超える」 ・他学年の様子を自ら知ろうとし、全般的な視点を持つ ・何事もチームで対応する</p>	<p>1. 具体的目標をもち、成長を実感できる教師 ・各分掌における今年度の具体的目標を設定し、達成に向けて努力する ・例年通りではない、新たな試みを工夫する ・やりたいことをもつ ・教員としてのキャリアを向上させる取組をする</p> <p>2 授業力の向上 ・日々の授業を大切に。 ・教材研究、指導法の研究に励む ・1人1実践(公開研究会、計画訪問の活用) ・交換授業、教科担任制に積極的に取り組む ・校外の良い授業を見る、モデルとなる指導者を見つける</p> <p>3. キャリアに応じた資質能力の向上 ・OJTの充実を図る ・「どうしたらよいですか」ではなく、「～したいが、どうですか」と尋ねる教師となる ・自分だったら…と常に考える教師となる ・子どもの気持ち、保護者の気持ちに寄り添える教師となる ・若手研修を実施する。 チャレンジした結果の失敗は、成功のもと ・学年、分掌等の場で同僚の働きぶりに触れ、自身に取り入れる</p>	<p>1. 業務改善に努める ・既成の方法にとらわれず、改善できることを洗い出す ・Scrap&Build(重要な業務の見極め) ・ICT、デジタル機器の効果的導入(テストのデジタル処理、デジタルドリルの効果的な活用) ・「明日を語る会」で検討し、職員自らが学校運営の意識を持ち、改善策を考える ・授業時数の適切な運用を行うための時数の適切な管理と授業の充実 ・PTA活動の在り方の検討、改善</p> <p>2. 時間外勤務の縮減 ・ノー残業デールールを見直す ・見通しをもった業務遂行に努める ・勤務時間の変更と効果の検証</p> <p>3. 心身の健康の保持 ・心配事を相談できる雰囲気づくり(学年、管理職、養教…) ・衛生推進委員会の活用 ・互いのモチベーションを高める声のかけ方を工夫する ・時間外勤務状況や個々の職員の状況の把握と、必要な場合は業務の再分担</p>

